

東中学校区の概要



- ① 本校は、新発田市の南東部に位置し、学区は北西から18.5km、北から南西10km、総面積213.59平方kmと広大な地域を有する。東に二王子・五頭・飯豊の連峰を望み、加治川や荒川沿いに平地が開ける。従来から稲作と畑作等の農業が盛んであるが、近年、旧市内に隣接する地域の住宅団地や工場の造成等によって、都市化が進む一方、中山間地では少子高齢化、過疎化が顕著である。赤谷地区には、かつて鉄鉱石などの鉱山があり、盛んに採掘されていた。
- ② 昭和47（1972）年4月1日、松浦中学校、五十公野中学校、米倉中学校、赤谷中学校の4校が統合し、新発田市立東中学校が創設された。本年度は創立41年目である。学区には、松浦小、五十公野小、米倉小、赤谷小の4小学校から入学する。五十公野小学校以外は、小規模校で、一部は複式となっている。今後、4小学校の統合が想定されている。
- ③ 学区が広いため、遠距離通学の生徒が多く、通学方法は、昭和59（1984）年3月末、国鉄赤谷線の廃止に伴う路線バス、スクールバス、自転車、徒歩と多様である。そのため、生徒の教育活動が、バスの時間と交通手段によって制約を受けるという問題も見られる。
- ④ 学区内の五十公野地区には、ふるさと会館、旧県知事公舎記念館、五十公野御茶屋、五十公野陸上競技場をはじめとしたスポーツ施設、五十公野山と升湯等の五十公野公園が集まり、学校周辺は緑豊かな環境に恵まれている。また、他の地区にも、旧赤谷線を活用した遊歩道、美しい自然の中の剣竜峡、内の倉ダム等の景勝地、旧会津街道や松並木、戦国大名・上杉景勝にまつわる史跡等が点在している。
- ⑤ 地域や保護者は、教育への関心が高く、生徒一人一人が落ち着いて充実した学校生活を送る中で、生きる力を身につけ、それぞれの希望する進路に進んでほしいと願い、「進んではげむ、心ゆたかな生徒」の育成を願っている。



五十公野御茶屋



林道から内の倉ダムを望む



五十公野陸上競技場